

Departure

海洋総合実習船宮城丸第3次航海実習

6代目宮城丸として最後の出港

令和3年十一月八日に石巻新漁港にて長期乗船実習乗船式が行われた。水産高校生徒や保護者・学校関係者らが、航海安全を願って見送った。海洋総合実習船「宮城丸」は、(株)ヤマニシで建造し平成十四年三月に竣工。総トン数六五〇トン同校での実習船としては今回が最後の航海となり、来年からは新造船宮城丸(六九九トン)に代わる。

日野浩之船長はじめ 実習を行う。

二日(水)に新船の進水式を

乗組員十九名と、宮城 船体はゆっくりと岸 行い、気仙沼港を出港し、県水産高校本科機関工 壁を離れ、汽笛を鳴らし 二十三日(木)、に石巻港へ学類型一八名、同校専 方向変換して、漁場へ旅 帰港、下船式を行い実習は攻科九名、気仙沼向洋 立っていった。 終了する。今年度はこれまで高校専攻科二名の実習 実習日程は、二十一日 2トンの水揚げ。以前は生も同船した。(日)からまぐる延縄実習 県内の生協やホテル白萩すでに実習達は、十月 を行い、一二月三日(金) で提供されてきた。多くの三十日(土)に乗船し、国 まで行い、鹿兒島港に寄 方「味しい」と評判にな内での停泊実習を行い 港。食料等の補給を行 っていることもあり、多く十一月二日(金)か い、十二月二十日(月)に の方に食して頂き、学校や

から十二月二十二日(火)ま 気仙沼港に入港し、水揚 実習船を知って頂きたい。での五十五日間の航海 げを予定している。二十



晴天に恵まれ、石巻新漁港を出港する宮城丸



指導教官紹介

第3次航海に乗船して 葉久人先生(気仙沼向 いる指導教官は、三浦嘉 洋高校)が乗船し、航 彦先生(水産高校)、外村 海中の実習・座学及び 直也先生(水産高校)、千 生活指導を行います。

航海中は、実習生と 寝食を共にし、実習生 は指導教官や乗組員 と交流を深める職業 観や将来について考 える機会となります。



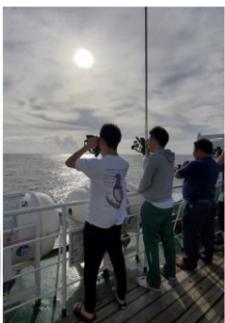
左：三浦教官、中：千葉教官・右：外村教官

ベテランから若手の 教官です。学校での学 習も大切ですが、洋上 での学びはより実践 的で学習効率の向上 やモチベーション向 上などが期待されて います。

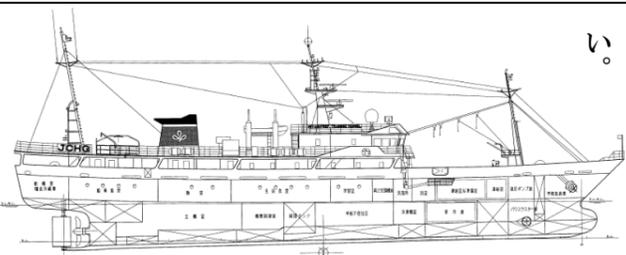
洋上での実習(延縄準備・天測)

専攻科生が本科お手本

洋上では、多くの実習が行われます。自分の位置を知る天測や、まぐる延縄実習の準備等が行われ、担当する業務を確認しました。その中で、実習の経験豊富な専攻科生は「お兄さん」のような存在。自分の経験も含め本科生に教える場面もあり、和やかな雰囲気です。実習を行なっています。



上：天測実習 下：まぐる延縄準備



取れるようにな る。船も「新しい 実習様式」に変化 していきます。是非多くの子供達に 乗船してもらいた い。

編集者ひとり言

新型コロナウイルス感染症防止により航海実習計画が大幅に変更されて2年目になる。「新しい生活様式」とよく聞きますが、船内での対応も消毒・換気はもとより健康観察を重要視し行なっている。これまで長期間家族と離れて暮らしたことが初めての実習生にとっては「不安」等も健康管理の一つ。新船では、各部屋で空調管理ができ、通信環境が整うことにより陸上と連絡が容易に取れるようにな